

付属資料－４

普天間飛行場の跡地を考える若手の会 公園・環境グループ提言書

普天間飛行場跡地利用への私たちの考え 公園編パート１

普天間飛行場跡地利用への私たちの考え

公園編パート 1



平成20年2月

普天間飛行場の跡地を考える若手の会 公園・環境グループ

目 次

1. はじめに.....	1
2. (仮) 普天間公園の検討の流れ.....	4
3. (仮) 普天間公園のあり方.....	5
4. (仮) 普天間公園のイメージ.....	15
5. 私たちの考える(仮) 普天間公園.....	19
参考資料―1 はごろも祭りでの市民・県民アンケート関連資料.....	20
参考資料―2 先進地視察会関連資料.....	23
参考資料―3 若手の会公園・環境グループの活動経過.....	29

1. はじめに

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下 若手の会）」は、平成 14 年度に発足して以降、地権者側の視点からの検討組織として、跡地利用に関わる勉強会や先進地視察会等の活動を継続的に実施しています。

普天間飛行場の跡地利用に向けた取組みは、県と市により策定された「普天間飛行場跡地利用基本方針（以下 基本方針）」及び「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画（以下 行動計画）」に基づき、今後分野別計画の検討が進められることとなっています。

こうした中、今年度から「若手の会」は分野別計画の分野である「公園・環境」、「交通」のグループに分かれ、それぞれの議論を進めることとなりました。

基本方針においては、唯一の具体的施策として（仮）普天間公園が位置づけられています。（仮）普天間公園は、普天間飛行場の跡地利用において、その規模や位置づけから非常に重要な要素になるといえます。また、行動計画における分野別計画のひとつとして「公園・環境」が取り上げられていることを踏まえ、普天間飛行場の跡地を考える若手の会としても「公園・環境」をテーマとしたグループを組織し、主に（仮）普天間公園のあり方についての議論をスタートいたしました。

（仮）普天間公園のあり方としては、非常に壮大なテーマであり、今後の跡地利用計画の策定に向けて、様々な視点から関係者が一丸となって検討を進める必要があるものと考えます。

今回の提言書は地権者側の視点から、（仮）普天間公園を将来の宜野湾市にどう活用すべきか、どのような人を対象とした公園であるべきか、具体的な方向性としてどのような展開が考えられるかなど、まずは公園・環境グループのメンバーの（仮）普天間公園に対する想いを出し合った結果を取りまとめたものです。

普天間飛行場の跡地を考える若手の会 「公園・環境グループ」

大川 正彦 天久 眞一 末吉 良光
宮城 敏彦 又吉 訓 大門 達也
佐喜眞 淳 呉屋 栄治 我如古 隆
又吉 真由美（宜野湾市軍用地等地主会事務局）

私たちの考える（仮）普天間公園

- ★「平和」をメインテーマに、基地にあるものを保存・活用し、平和の発信地となるような公園としていく（マイナス要素を良い意味で活用する）。
- ★将来的な発展を見据えた施設を取り入れ、様々な側面（経済、環境など）から宜野湾市の発展に寄与するような公園としていく。
- ★平和をメインテーマとしつつ、その要素を取り入れた「自然・歴史・文化」、「スポーツ・レジャー」、「シンボル」をテーマとした施設等を取り入れ、市民・県民・県外からの観光客等の誰でも魅力を感じる公園としていく。
- ★糸満市の「戦時の平和学習」とは区別化をはかり、「戦後の基地との関わりの中での平和学習」の場として修学旅行生も訪れるような公園としていく。また、返還記念公園として基地に関する記録を残していく。
- ★既存の自然資源を活用するとともに失われた自然を再生させ、緑を中心とした公園づくりを行い、環境配慮型の公園づくりを行うことで環境学習の場ともなる公園としていく。



★鍾乳洞等の自然資源や地域の文化財等の**宜野湾市独自の資源を活用した公園**としていく。

★記念写真の場にもなるような、「普天間飛行場・宜野湾市の歴史や物語」、「平和発信というメッセージ」を感じることができる**シンボル**を取り入れていく（公園だけでなく宜野湾市・沖縄県のシンボルともなるもの）。

★一過性のイベントではなく、**常時人が呼べる集客力のある公園**としていく（子どもたちが気軽に遊べるレジャー施設、あらゆるイベントの誘致、野球やサッカー等のフロチームが利用できる施設など）。

★歩道コースや健康関連施設を設置し、**健康・長寿**にも意識した公園づくりをしていく。

普天間飛行場の跡地を考える若手の会「公園・環境グループ」



2. (仮) 普天間公園の検討の流れ

検討を進めていくにあたっては、(仮) 普天間公園は非常に大きなテーマであることから、まずは自分達の身近な疑問点を明らかにし、それを解決するための方法について意見交換を行った。意見交換の主な内容は以下のとおりである。

疑問1：実際に(仮) 普天間公園を利用する(であろう)人々はどのような公園を望んでいるのだろうか？

⇒利用者の視点から(仮)普天間公園を考えてみる

疑問2：(仮) 普天間公園を利用する(であろう)人々とは？

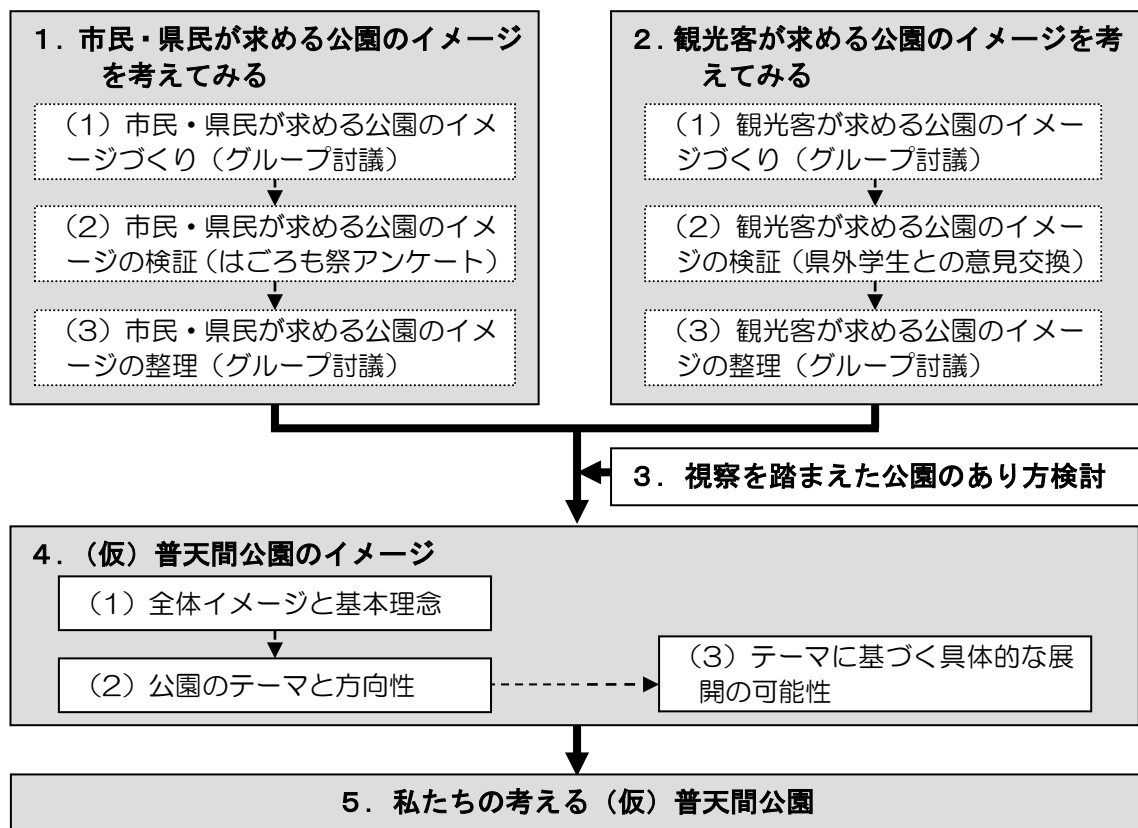
⇒最も身近な県民・市民と、沖縄に訪れる多くの観光客ではないか

疑問3：県民・市民と観光客では求める公園のイメージは違うのではないかな？

⇒それぞれの立場になって考え、検証してみる

意見交換を行った結果、公園の主な利用者になると考えられる「市民・県民」、「観光客」それぞれの視点に立って検討を進めていくこととなり、また、実際に利用者の意向について検証も行いながら進めていくこととなった。そして最終的に、それぞれの検討結果を踏まえ、(仮) 普天間公園のテーマと方向性についてとりまとめた。

＜検討の流れ＞



3.（仮）普天間公園のあり方

（1）市民・県民が求める公園のイメージを考えてみる

①市民・県民が求める公園のイメージづくり

市民・県民が求める公園とはどのようなものかについて議論を行い、公園のイメージとしてあげられた意見は以下の7点でまとめることができた。

＜市民・県民が求める公園のイメージ＞

- ◇さまざまなスポーツを楽しめる公園
- ◇家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園
- ◇生き物とふれあえる公園
- ◇水と緑を通じて心身が癒される公園
- ◇沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園
- ◇体験型学習（芸能、農業など）のできる公園
- ◇シンボルタワーのある公園

②市民・県民が求める公園のイメージの検証

はごろも祭りにおいて、「市民・県民が求める公園イメージ」についてのアンケートを実施し、市民・県民の意向に関する検証を行ったところ、以下のような結果が得られた。

＜アンケートの結果＞

- ◇さまざまなスポーツを楽しめる公園⇒222（1位）
- ◇家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園⇒211（2位）
- ◇生き物とふれあえる公園⇒110（3位）

＜年齢別の結果（最も多かった回答）＞

- ◇19歳以下 ⇒「さまざまなスポーツを楽しめる公園」
- ◇20～39歳⇒「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」
- ◇40～59歳⇒「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」
「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」
- ◇60歳以上 ⇒「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」

③市民・県民が求める公園のイメージの整理

アンケートでの検証を踏まえて、「市民・県民が求める公園イメージ」について議論を行い、以下のように整理を行った。

市民・県民が求める公園イメージの議論のまとめ

- ◆19 歳以下の若い世代であれば「さまざまなスポーツを楽しめる公園」、20～59 歳の年代であれば「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」、高齢者の世代であれば「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」というように、**年齢層によって求める公園のイメージも変わってくる。**
- ◆「**スポーツのできる場所**」や「**レクリエーション施設**」が宜野湾市の足りない部分であり、市民等が望んでいることもわかった。



(2) 観光客が求める公園のイメージを考えてみる

①観光客が求める公園のイメージの検討

観光客が求める公園とはどのようなものかについて議論を行い、公園のイメージとして以下のような意見があげられた。

<観光客が求める公園イメージ>

- ◇観光客はそこにしかないものを求めて訪れてくる。
- ◇海外からの人はテーマパークのようなものではなく沖縄の文化等を求めている。
- ◇観光で基地をめぐるツアーがあるぐらいなので、基地には関心がある。
- ◇野球やサッカー等のプロチームを呼べるようなスタジアムをつくり、試合を観戦しに来てもらうような形が求められる。
- ◇シンボルタワーのようなものが求められる。

<<観光客のニーズに関する意見>>

- ・観光客はそこにしかないものを求めて訪れてくる。
- ・沖縄の場合、海洋博公園や琉球村などテーマパークのような施設が幅広く点在しており、その中で新たに観光客を呼ぶようなものをつくるのは難しい。
- ・最近は海外からの観光客も増えてきているが、海外からの人はテーマパークのようなものを求めておらず、文化等を求めて沖縄に来ると思う。

<<そこ（宜野湾市・普天間飛行場）にしかないもの・活用できる文化資源>>

資源①:基地が存在した事実⇒平和学習の展開

- ・普天間返還記念公園という位置づけで飛行場利用の記録を残す。
- ・修学旅行のほとんどが平和学習で沖縄を訪れており、南部の平和祈念公園から北部方面へと学習していく際の施設として訪れてくるような公園が良いと思う。
- ・マイナス要素であった基地を良い意味で利用すれば良いと思う。
- ・平和記念の公園というテーマで良いと思う。公園内で戦車やミサイルを展示するのは生々しいものではあるが、実際にふれることが出来る機会は少なく、観光で基地をめぐるツアーがあるぐらいなので関心があるものだと思う。
- ・昔基地があったという事実を忘れないために、今ある基地内の格納庫等の施設を公園の一部として残すことも必要であると思う。一方で公園内に戦車等を展示するというのは良いアイディアだが、それに反対する意見も出てくると思うので十分な配慮が必要だと思う。博物館内に展示するのは問題ないと思う。
- ・公園を「平和の発信地」とするのが良い。
- ・一過性のイベントではなく、常時人が呼べるものでなければいけない。

資源②:残された自然環境⇒自然資源の積極的な活用

- ・普天間飛行場の自然資源を活用して、鍾乳洞を利用した地下公園がよいと思う。沖縄は暑いので人が集まると思う。
- ・宜野湾市の資源となると、普天間飛行場の地下にある鍾乳洞等の限られたものしかないため、これを十分に活用した公園にすべきである。
- ・昭和記念公園にあったように、昔たくさんいたトンボやチョウが住めるような湿地や池をつくるのがよい。

資源③：プロスポーツチームのキャンプ地⇒スポーツによる誘客

- ・最近ではあらゆる種類のスポーツが合宿等で沖縄県を利用しているし、宜野湾市には横浜ベイスターズがキャンプで訪れている。
- ・運動公園にして、野球やサッカーのプロチームを呼べるようなスタジアムをつくり、試合を観戦しに来させるような形で観光客を呼べば成功すると思う。

《そこ（宜野湾市・普天間飛行場）にしかないものを新たにつくる》

資源④：シンボリックなものがない⇒宜野湾の新たなシンボルを造る

- ・シンボルタワーのようなものがあって、それに寄っていくようなイメージのものがよい。

②観光客が求める公園のイメージの検証

観光客が求める公園イメージの検証の一つとして、グループ討議に参加した立命館大学の学生と意見交換を行い、以下のような意見があげられた。

＜立命館大学学生の意見＞

- ◇アンケート結果は、市民主体の公園づくりをするためには重要な意見であると思う。個人的な意見としては、観光客を呼べる公園にすれば金銭的にも潤うので良いと思うし、沖縄には遊ぶところはたくさんあるが基地を感じられるところはほとんどないと思うので、基地機能を残せば観光スポットになると思う。
- ◇スポーツを楽しめる公園が求められているというがあるので、基地を利用したスポーツも良いと思う。
- ◇県外から来た人として、沖縄にせっかく来た以上は基地を見たいという思いがあると思うので、基地を感じられる公園として整備するのが良いと思う。

＜学生の意見を受けての意見＞

- ◇展望台のような高いところから見て、返還前と返還後が見てわかるようなものがあれば良いと思う。
- ◇中城の世界遺産の周辺で公園をつくっており、それとの兼ね合いもあると思う。県全体としての位置づけという観点からも、同じものを近くにつくるわけにはいかないだろうし、そちらの状況を見ながら考えなければならないだろう。

③観光客が求める公園のイメージの整理

検証を踏まえて、「観光客が求める公園イメージ」について議論を行い、以下のように整理を行った。

観光客の視点にたった議論のまとめ

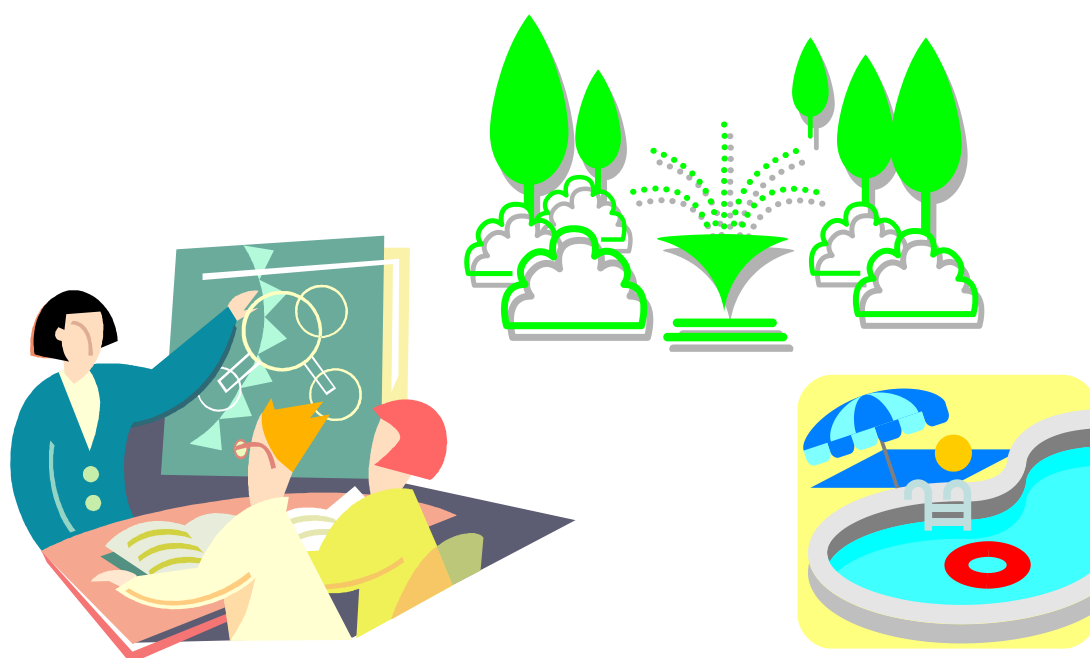
- ◆観光客の視点に立つと「そこにしかない独自性」が必要となる。
- ◆観光客はただその場所に来るのではなく、「この場所・施設に行きたい」という何か目的を持っているはずである。



- ◆宜野湾市の資源は何かと考えると基地の地下にある鍾乳洞等であるが、沖縄県内には離島も含めるといくつかあるものであり、そこにしかないものにはつながってこない。
- ◆やはり宜野湾市独自の資源となると普天間飛行場である。



- ◆よって、観光客という視点で考えると、基地という資源(普天間飛行場そのもの)を利用した「平和」をメインテーマとし、ネガティブなイメージではなく、飛行場があったという事実を伝え、平和学習をしよう「普天間返還記念公園」として位置づけ、宜野湾市を平和の発信地とするのが良いと考えられる。



(3) 視察を踏まえた公園のあり方検討

先進地視察を踏まえて、万博記念公園で見学してきた各施設の（仮）普天間公園への活用の可能性を検討した。

① 太陽の塔・広場⇒シンボル性、地域の象徴、まとまりをつくるもの、ランドマーク ⇒普天間でいえば、例えば「平和発信の塔」

- ・ 「万博記念公園 = 太陽の塔」というようなシンボルとなるものがあり、記念写真コースとしても利用されていた。
- ・ 「シンボル ⇒ 記念写真ができる場 ⇒ 公園の目玉となるもの」は人を呼ぶ仕掛けとして重要である。
- ・ 大阪の顔となっている「太陽の塔」内部を見ることはできなかったか。万博当時は理念を象徴するような工夫がされていたと聞く。跡地にも、その理念を象徴できるようなシンボリックなものを作ってもよいのでは。
- ・ 歴史や物語を感じる太陽の塔（万博といえば・・・。普天間といえば・・・。）。
- ・ シンボルタワーがあることによって公園にまとまりがあるように感じた。普天間公園にも必要ではないか。
- ・ 一部において草等がはえて清掃が行き届いていないところがあった。未永く利用する公園にするためには、清掃について検討する必要性を感じる。
- ・ 「太陽の塔」は、思った以上に大きく、力強く、威圧された。普天間の公園もぜひシンボルマークが必要と思った（テーマは「平和発信の塔」）。
- ・ 37年前の大阪万博のシンボルである太陽の塔周辺がパビリオン館だったとは想像し難いほど自然に囲まれているのにはびっくりした。自然も人工的につくれるものだった。
- ・ シンボルとなるものがあるとやっぱり強く印象に残る。また、公園に行ったことを話す時にも伝わりやすく、クチコミで雰囲気伝わりやすいと思った。
- ・ 太陽の塔があるだけで何か特別な公園のような気がした。
- ・ シンボルとなる施設をつくる、つくらないにかかわらず、普天間公園の存在自体が宜野湾市、沖縄県のシンボルとなってほしい。

②鉄鋼館、レジャー施設（ルビナスガーデン、おもしろ自転車広場など）

⇒遊具があることで子供たちは集まる⇒レジャー施設はやはり必要

- ・ 平日ということもあり全体的に閑散としていたが、こちらは遠足に来ていた子供たちが数多くいた。
- ・ お金をかけなくても遊具があれば楽しめる。
- ・ 子供たちが気軽に遊べるようなレジャー施設は必要だと思った。小学生の遠足や、保育園のピクニックなどで利用できるようで、小学生や幼児の団体を見かけた。

③水の施設（大地の池、水の広場、砂の広場など）

⇒一年を通した水の活用が大事、十分な管理が必要

- ・ 水辺は管理が行き届いていない。印象としては、入園料をとっている割には管理が行き届いていない。
- ・ 大きなオタマジャクシがいた。子供たちが自由に採ったりできれば良いと感じた。
- ・ 水に関心を持っての施設（科学館など）があると良いと思う。地下水がいっぱいあるのでそれを活かしていくべき。
- ・ 子供は水が好きなので、整備さえしっかりやれば水の施設は良い。
- ・ 季節的なこともあるが、水の施設を利用している様子を見る事はできなかった。パンフレットや地図を見ると、かなり工夫して様々な水の施設が作られているようだが、年間を通して利用できるような工夫が必要だと感じた。

④森の足湯・バイオマスエネルギー施設

⇒環境への配慮は必須事項、小さな工夫で人が集まる施設づくりも可能

- ・ 足湯については、思ったよりも施設が小さく、順番を待つ客が多く見られた。高齢の方々に人気のある施設だった。
- ・ バイオマスエンジンを足湯に取り入れているのは良い考えである。環境にやさしいものはどんどん取り入れるべき。
- ・ 足湯は公園の中でも人が集まっている場所だった。それが楽しみで公園に来る人もいるように感じた。小さい施設ではあるが、人が集まるというところにつくり手側の工夫のあとを感じた。

⑤花の丘、並木道など

⇒季節ごとの演出、緑を中心とした公園づくりも重要

- ・ 高齢者が多かった。ただ、休日には様々な人が訪れる場所なのではと感じた。
- ・ 季節ごとに違ったイメージを演出できたら良いと思った。子供連れで楽しめそう。
- ・ 沖縄だと手入れが大変そうだった。
- ・ 公園をまとめるようなもの（シンボルタワーなど）が必要。施設ばかりつくってもダメで緑を中心に考えなければ成功しない。

⑥ソラード・展望塔、自然学習館、自然学習の森

⇒景観と自然を楽しむ回廊⇒普天間では海などの眺望も含めて活用可能

⇒長い目で見た自然再生の取り組みは普天間でも必要⇒案内板や遊具などの小さな工夫で環境学習や健康づくりの場としての展開が可能

- ・ 公園内を散策した中で個人的に一番インパクトに残ったのは、ソラードと展望塔である。管理は大変そうだが普天間にもあったらいいなと思った。
- ・ ソラード = 景観と自然を楽しむ回廊 ⇒普天間では海などの眺望も含めて活かせるのではないかなと思う。
- ・ 自然学習館では週末や休日にはイベントが計画されており、来場者も多いのであろうが、今回の視察は平日であったため静かだった。
- ・ 普天間の場合には植物はどういうものが必要なのか。
- ・ 森（緑）をゼロから長い時間をかけて創り出すという視点がすばらしいと思う。長い目で見た自然再生の取り組みは普天間でも必要であろう。
- ・ 思ったより短い時間で再生された森が宜野湾にもあったら良い。沖縄（宜野湾）にあったら環境学習などでもっとにぎわいそう。都市の中にあるからこそ良い。
- ・ 森の中にある空中観察路は子供も大人も楽しめる自然体験型の施設で、ただ観察するのではなく、体力づくりにもよい施設だと感じた。
- ・ 西海岸の上にせり出す遊歩道を崖沿いにつくるというアイデアが浮かんだ。
- ・ 森をつくるにも、公園内のどの場所に作るかがすごく重要である。ど真ん中につくると、周囲はコンクリートジャングルになり意味が無くなってしまう。
- ・ もう少し遊具を増やしてアドベンチャー施設としてもおもしろいと思った。
- ・ 公園にあまり人がいなかったと思う。他の施設の収入で森林等を管理しているのではないかなと思った。
- ・ 沖縄の樹木は広葉樹であるため、これらの木を考慮した森林公園にしなければいけ

ない。

- ・ 森を、上からまたいで眺められるというのもおもしろい。
- ・ 森の空中散歩は楽しめた。遊具をいれたらもっと楽しめると思う。
- ・ 森、公園を一望できる展望台は、シンボルタワーとして人が集まる場所である。
- ・ 展望塔のある公園はいいものだが、そこから見える景色にこそ気を配ることが大切であると実感した。緑一面の景色をつくるためものすごい数の木を植えたらしい。
- ・ 樹木の管理がされておりきれいな公園だった。
- ・ 「緑の再生」というテーマに基づき260種60万本という植樹はすごかった。
- ・ ソラードを歩いていると、途中で森の音を聞く装置や案内板などを設置していて、今ある魅力を引き出していくような小さな工夫をしていた。そんなふうに維持管理、運営していくことが大切だと感じた。

⑦日本庭園

- ・ よく整備されていてきれいだったが、なぜ、あえてつくる必要があったのかわからない。
- ・ 盆栽コーナーは良いが、全体として大きすぎる。

⑧その他施設等

- ・ 広大な園内を回るための移動手段の整備が重要
- ・ 緑の再生というテーマの取組みと未来像がみえた⇒基地の返還から将来の宜野湾の方向性をメッセージに伝える公園づくりが必要

1) 交通手段について

- ・ 花ポップ等は時間が決まっていて、乗りたい時に乗れない。
- ・ 広大なので、徒歩だけでなく自転車等でまわれるとよい。
- ・ 大規模な駐車場や鉄道など多様なアクセス手段がある。人を集めるためには交通対策も重要である。
- ・ 園内の移動手段が必要である。
- ・ 移動が多すぎるように思った。普天間公園は、多くの施設を作るのではなく2つ程度、例えばレクリエーション施設と文化施設などというようにして市民の集まる場所を計画した方が良いのではないかと感じた。

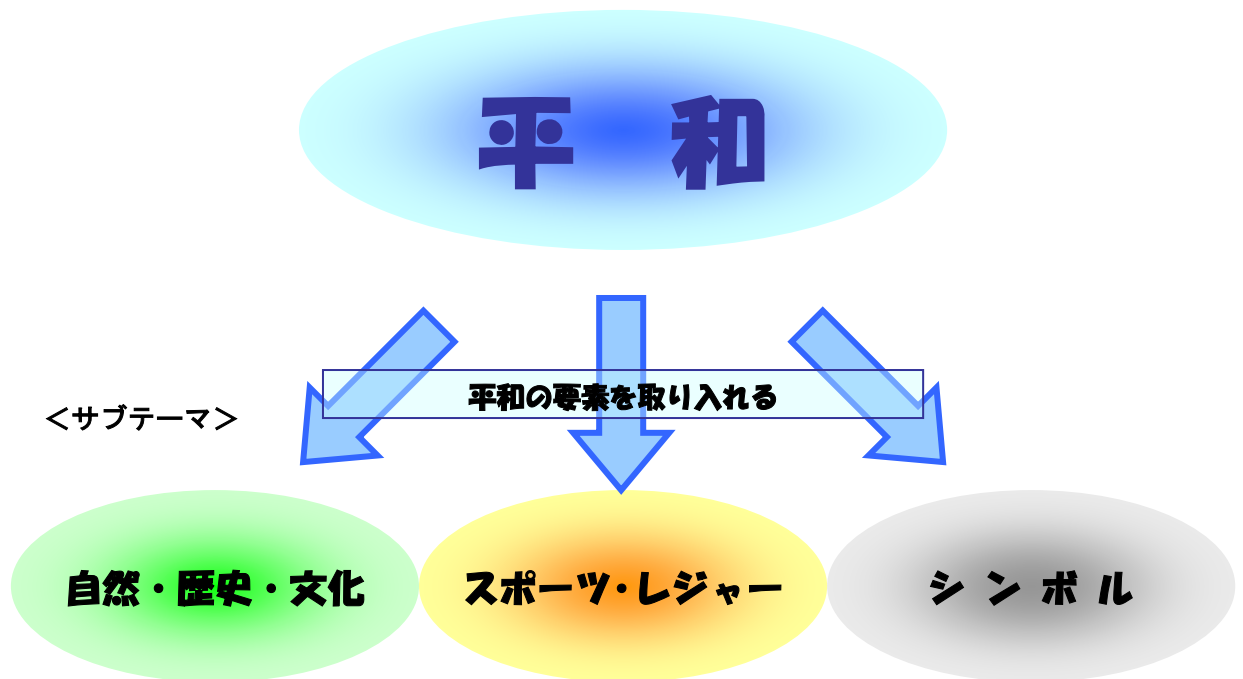
2) その他意見

- ・ 大規模公園は複合型になってくる。
- ・ 過去→現在→未来の普天間が伝わる仕掛けが必要。
- ・ 昭和記念公園と比べるとさびしいイメージがした。
- ・ 「まちのなかの緑のシンボル」として公園が存在しているように感じた。普天間公園も、まちの中で何か全体を引っ張っていくような存在になれば意味あるものになると思う。
- ・ 万博公園が整備されて、緑いっぱいの変化したように、基地が返還されて「宜野湾市はこれからこんなまちになっていきますよ」というメッセージをあらわすような存在の公園になると良いと思った。
- ・ 公園整備前と後を比べると全く違う場所のようだった。
- ・ 万博公園のように緑化が進んでいくと良いと思った。
- ・ やらうと思えば、全く自然のない状態からも緑を復活させることができるということを、実際に目にして感じる事ができた。決して理想論でとどまる話ではない。

4. (仮) 普天間公園のイメージ

(1) 全体イメージと基本理念

＜公園づくりのメインテーマ＞



＜将来のメッセージ＞

基地のまちから平和のまちへ

＜公園づくりの基本理念＞

「普天間返還記念公園」として平和の大切さと将来の宜野湾市の方向性をメッセージとして後世に伝えとともに、県民・市民が憩い、観光客が集まる将来的なまちの発展にも寄与するシンボル性の高い公園づくりを行う。

(2) 公園のテーマと方向性

メインテーマ：「平和」

(テーマの内容)

- 基地を感じることができ、平和の発信地となる公園。
- 家族で遊べる施設や平和学習でも利用できる公園。
- マイナス要素を良い意味で利用する。

(テーマにもとづく方向性)

- 基地を利用した公園
- 糸満市は「戦時の平和学習」、宜野湾市は「戦後の基地との関わりの中での平和学習」とし差別化を図る
- 返還記念公園として記録を残していく

サブテーマ①：「自然・歴史・文化」

(テーマの内容)

- 緑を中心とした公園づくり。(亜熱帯の自然を生かした今以上の緑の再生)
- 地形等の宜野湾市独自のものを活用する公園。
- 鍾乳洞や昔の街並みの復元など地域の資源・文化を活用

(テーマにもとづく方向性)

- 長い目で見た自然再生の取り組み
- 鍾乳洞を利用した地下公園
- 歴史をふんだんに取り入れた公園
- 海・陸・空のバランスを取り入れる

サブテーマ②：「スポーツ・レジャー」

(テーマの内容)

- 一過性のイベントではなく常時人が呼べる集客力のある公園。
- スポーツができたり、誰でも利用しやすいような健康をテーマとした公園。

(テーマにもとづく方向性)

- 県民・市民が日常的に利用する公園
- 常時イベントが行われる公園
- 運動公園・健康公園

サブテーマ③：「シンボル」

(テーマの内容)

- 普天間・宜野湾市の歴史や物語を感じるシンボルのある公園。

(テーマにもとづく方向性)

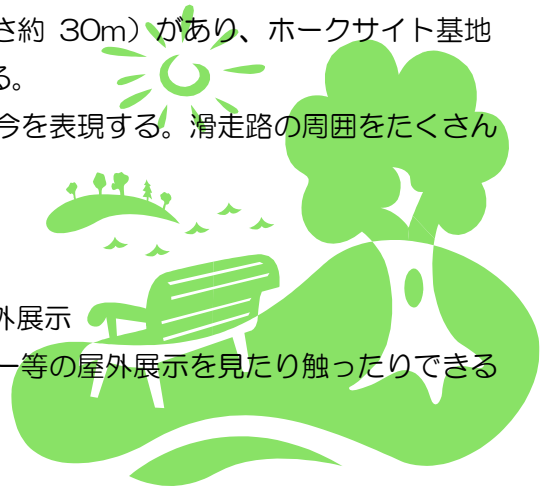
- 公園の存在自体が宜野湾市・沖縄県のシンボルとなるようなもの
- 宜野湾市の将来像を表現するような公園（まち全体を引っ張る存在）

(3) テーマに基づく具体的な展開の可能性

①「自然・歴史・文化」をテーマとした展開イメージ

＜基地としての歴史の保存・活用＞

- ・昔は森川公園の近くに地下格納庫（深さ約 30m）があり、ホークサイト基地になっていた。現在もあれば活用できる。
- ・滑走路をほんの一部利用して、昔と今を表現する。滑走路の周囲をたくさんの緑で覆う。
- ・格納庫、建物をそのまま残す
- ・兵器をモニュメントとして展示。
- ・大砲、ミサイル、戦車、飛行機等の屋外展示
- ・資料展示を見て学んだり、ヘリコプター等の屋外展示を見たり触ったりできる基地歴史博物館
- ・佐喜眞美術館と関連付ける



＜環境学習の場としての緑の再生＞

- ・環境学習の場となる再生された森づくり
- ・トンボやチョウが住める湿地や池をつくる
- ・子供たちが自由に生きものをとったりでできる場
- ・自然植物園
- ・太陽熱、落ち葉等を資源として利用
- ・水に関心を持たせる科学館。
- ・ソラードのようなもの（空中散策路）
- ・西河岸の上にせり出す遊歩道をがけ沿いにつくる。
- ・季節ごとに違ったイメージを演出する

＜地域の資源を生かした環境整備＞

- ・鍾乳洞を活用した迷路

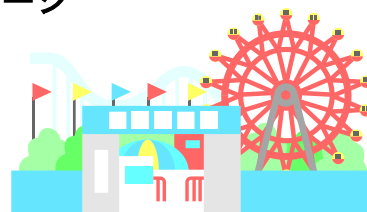


- ・昔の集落の復元
- ・神山の文化財の活用
- ・宜野湾並松街道の一部再現等、基地によって失われた昔から現在までの宜野湾を感じられることができるエリア

②「スポーツ・レジャー」をテーマとした展開イメージ

＜市民の憩いの空間づくり＞

- ・子供たちが気軽に遊べるようなレジャー施設
- ・集客を見込んだ大型のレジャープール施設
- ・サイクリングコース
- ・普天間飛行場の広大さ、基地跡地を後世に残す意味でもゲートをそのまま残し、フェンス沿いにサイクリング及び歩道コースを一周めぐらせる。
- ・平和学習の場として野外ステージやホールなど平和音楽祭なども取り入れて修学旅行生を呼び込む。



＜スポーツ・イベント＞

- ・野球、サッカー等のプロチームが使用できる施設。
- ・あらゆるイベントを誘致



＜健康づくり＞

- ・メタボリックの防止等のここになれば健康という公園
- ・健康関連の施設が公園の周囲に集まってくることによって周辺に波及させる

③「シンボル」をテーマとした展開イメージ

＜シンボル＞

- ・平和発信というメッセージのある塔あるいは博物館
- ・展望台のような高いところから見て返還前と返還後が見てわかるような造りにする
- ・その理念を象徴するようなシンボル
- ・記念写真コースとしても利用されるシンボル
- ・歴史や物語を感じるシンボル



＜周辺の跡地利用を含めたシンボルづくり＞

- ・宜野湾市の立地条件を考え、高台に面している西側に修学旅行生や団体客が泊まれる大型のリゾートホテルが必要になってくると思う。(はごろもや宜野湾市の特産物を利用した食材等)
- ・中央に合同庁舎(東京都庁のようなビル)を建て、四方が望める高台をつくる
- ・はごろもタワー(仮称)約50m以上、条件:海が300℃くらい見える
- ・防災機能や滑走路の活用



5. 私たちの考える（仮）普天間公園

公園イメージの検討を踏まえた若手の会が考える「（仮）普天間公園」は、以下のとおりである。

- 「平和」をメインテーマに、基地にあるものを保存・活用し、平和の発信地となるような公園としていく（マイナス要素を良い意味で活用する）。
- 将来的な発展を見据えた施設を取り入れ、様々な側面から宜野湾市の発展に寄与するような公園としていく（経済、環境など）
- 平和をメインテーマとしつつ、その要素を取り入れた「自然・歴史・文化」、「スポーツ・レジャー」、「シンボル」をテーマとした施設等を取り入れ、市民・県民・県外からの観光客等の誰でも魅力を感じる公園としていく。
- 糸満市の「戦時の平和学習」とは差別化をはかり、「戦後の基地との関わりの中での平和学習」の場として修学旅行生も訪れるような公園としていく。また、返還記念公園として基地に関する記録を残していく。
- 既存の自然資源を活用するとともに失われた自然を再生させ、緑を中心とした公園づくりを行い、環境配慮型の公園づくりを行うことで環境学習の場ともなる公園としていく。
- 鍾乳洞等の自然資源や地域の文化財等の宜野湾市独自の資源を活用した公園としていく。
- 記念写真の場にもなるような、「普天間飛行場・宜野湾市の歴史や物語」、「平和発信というメッセージ」を感じることができるシンボルを取り入れていく（公園だけでなく宜野湾市・沖縄県のシンボルともなるもの）。
- 一過性のイベントではなく、常時人が呼べる集客力のある公園としていく（子どもたちが気軽に遊べるレジャー施設、あらゆるイベントの誘致、野球やサッカー等のプロチームが使用できる施設など）。
- 歩道コースや健康関連施設を設置し、健康・長寿にも意識した公園づくりをしていく。

参考資料－１：はごろも祭での市民・県民アンケート

（１）調査概要

◆調査日：平成 19 年 8 月 19 日（日）

◆対象者：はごろも祭りの来場者

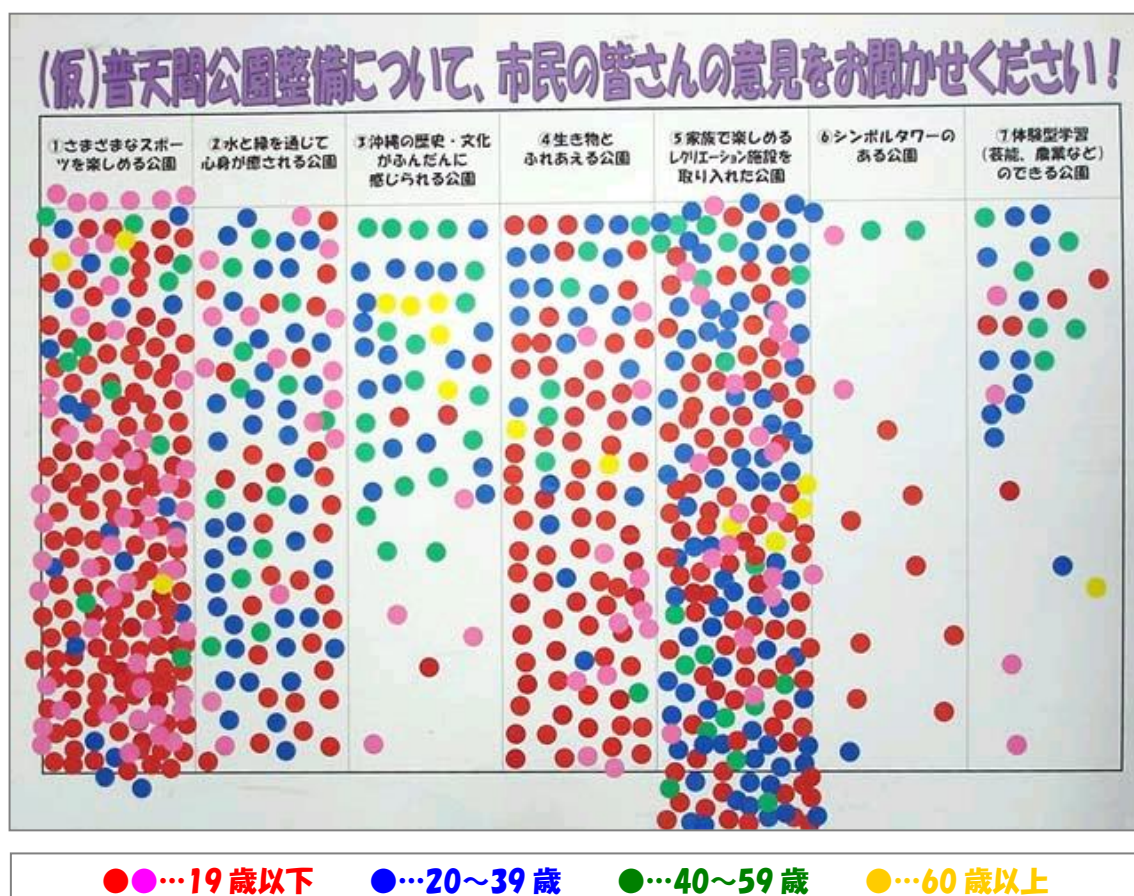
◆調査方法：

若手の会で議論を行い整理した上記 7 つの選択肢（公園イメージ）の中から、（仮）普天間公園整備のイメージとして自分の考えにあてはまるもの（もしくは考えに近いもの）を選んでもらい、回答用パネル（次頁）にシールを貼ってもらった。

◆回答状況

年齢	19 歳以下	20～39 歳	40～59 歳	60 歳以上	合計
回答数	451	192	75	15	733

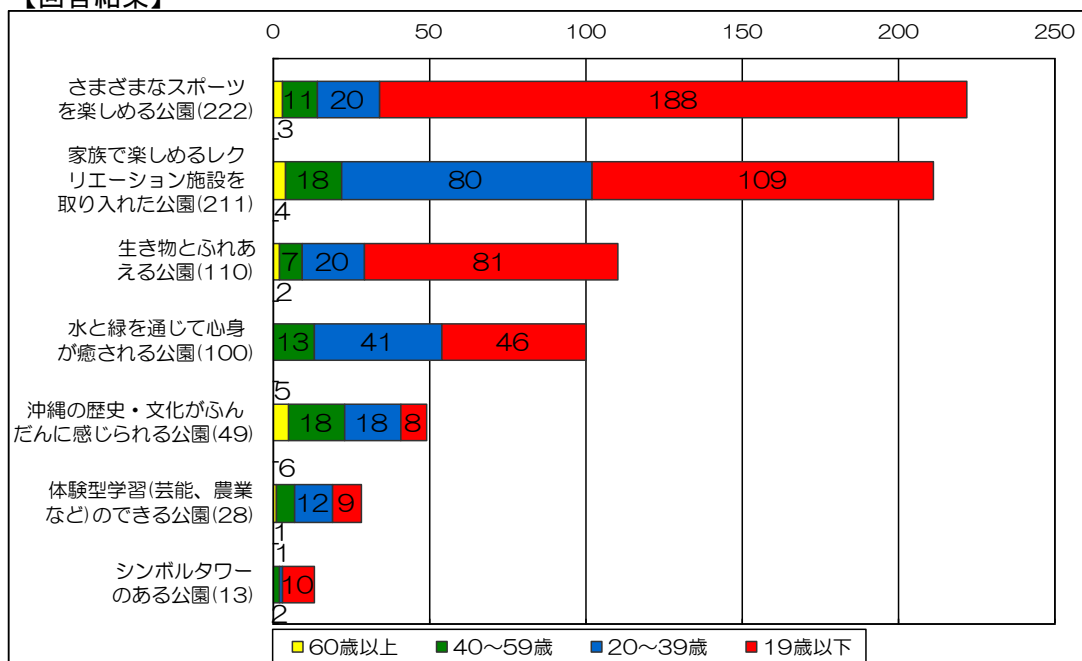
【回答用パネル】



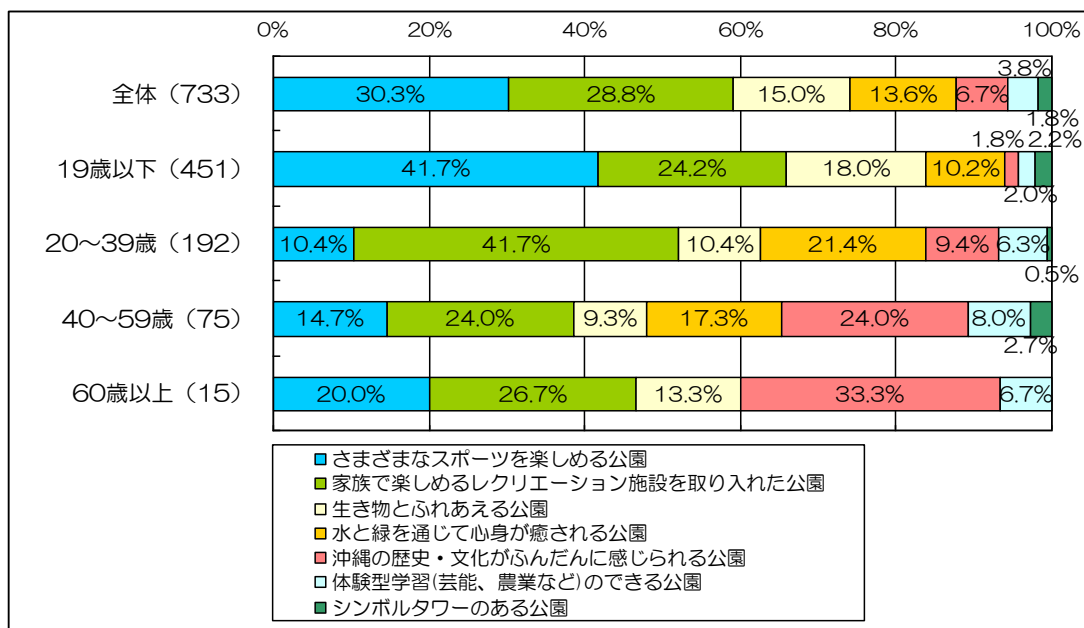
(2) アンケート結果

- 公園整備に対する意向は、「さまざまなスポーツを楽しめる公園」が222でもっとも多く、次いで「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」が211となっている。
- 全体を見ると、この2項目に対する要望が特に多く、実際に利用者がスポーツや娯楽等を楽しめるという内容が求められており、シンボルタワー等に対する要望は少なくなっている。
- 年齢別の分布を見ると、年齢により要望の多い項目が以下のように異なっている。
 19歳以下 ⇒ 「さまざまなスポーツを楽しめる公園」
 20～39歳 ⇒ 「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」
 40～59歳 ⇒ 「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」
 「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」
 60歳以上 ⇒ 「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」
- 年齢が上がるにしたがって、「沖縄の歴史・文化がふんだんに感じられる公園」に対する要望が高くなっている。また、19歳以下では「さまざまなスポーツを楽しめる公園」、20～39歳では「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」がそれぞれ4割以上と他に比べて特に多い割合となっている。

【回答結果】



【回答結果と年齢の関係】



(1) 先進地視察の概要

「若手の会」等において議論されている「交通」、「公園・環境」について、議論の幅や内容の進化を図るとともに、会の活性化及び相互の交流を図ることを目的として実施した。

視察先は、「若手の会」交通グループからの意向をもとに、日本初のLRT（次世代型路面電車システム）導入都市である富山県富山市とし、富山市に行く過程で、大規模かつ環境に配慮された公園事例として「万博記念公園」を見学することとした。万博記念公園の概要は以下のとおりである。

◆所在地：大阪府吹田市

◆面積：総面積 264ha

◆概 要：1970 年に開催された日本万国博覧会の跡地を一体的に緑に包まれた文化公園として整備されたもので、独立行政法人日本万国博覧会記念機構により運営されている。広大な自然と、博物館等の文化施設、競技場等のスポーツ施設、レジャー施設を有しており、博覧会当時の面影を残す残存施設も数多くある。また、博覧会開催にあたり失われた自然生態系を再生させることを目的としており、様々な環境保全の取り組みも行われている。



(3) 見学の様子

万博記念公園入口



太陽の広場まで歩いて移動



公園のシンボルであり、万博当時の資源として活用している「太陽の塔」を見学





園内から排出される木質バイオマスをエネルギーへ転換させる施設の見学



ライブ会場等にも利用されているもみじ川芝生広場



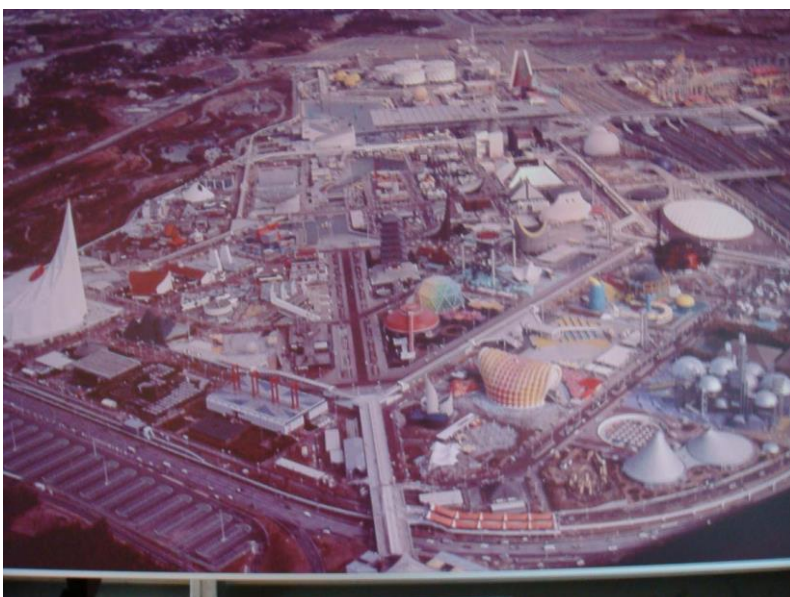
グループに分かれ歩いて移動



ソラードを歩きながら森を上から見学



ソラードの終点にある展望タワーから見える公園全体の眺め



パネル展示してあった公園整備前の様子



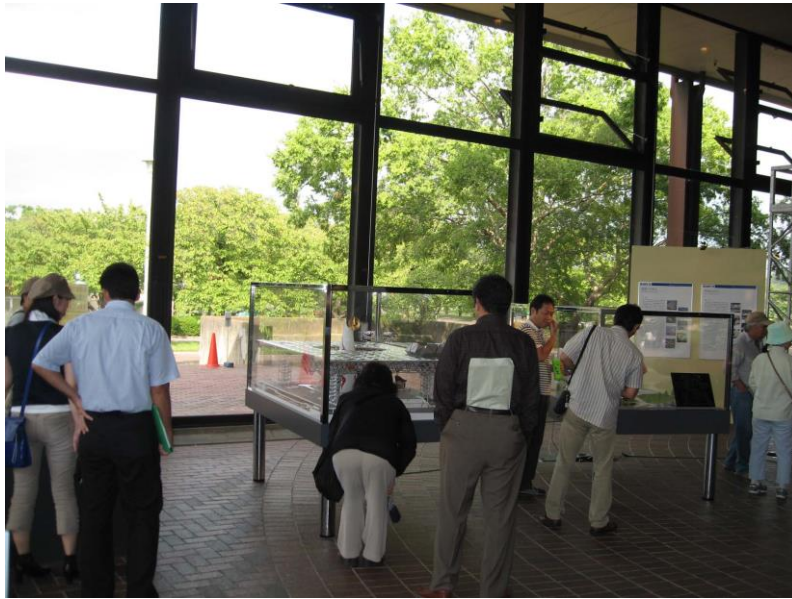
コスモスフェスタが開催されていた
花の丘を見学



ビオトープの池



公園内の案内板で位置を確認



鉄鋼館にて万博開催当時の展示を見学



日本庭園内の心地池



日本庭園案内所を見学

参考資料－３：若手の会公園・環境グループの活動経過

回数	日付	意見交換の内容等	
1	平成 19 年 5 月 8 日（火）	◆「交通」、「公園・環境」のグループ分けと活動計画について	 アンケートの様子 (8.19)
2	6 月 12 日（火）	◆市民・県民の求める公園のイメージについて	
3	7 月 10 日（火）	◆先進地視察会の候補地について（万博記念公園に決定）	
4	8 月 14 日（火）	◆観光客が求める公園のイメージについて	 定例会の様子 (9.11)
5	8 月 19 日（日）	◆はごろも祭り市民アンケート	
6	9 月 11 日（火）	◆はごろも祭り市民アンケート成果まとめについて ◆立命館大学学生との意見交換	 視察の様子 (10.11)
7	10 月 9 日（火）	◆提言書とりまとめ方針について	
8	10 月 11 日（木） ～13 日（土）	◆先進地視察会	
9	11 月 13 日（火）	◆視察会の成果とりまとめ	 定例会の様子 (11.13)
10	12 月 11 日（火）	◆公園づくりの方向性について（具体的展開の検討）	
11	平成 20 年 1 月 8 日（火）	◆提言書（案）について	
12	2 月 12 日（火）	◆提言書（最終案）について	

「普天間飛行場跡地利用への私たちの考え（公園編パート 1）」に関するご意見・ご感想を下記までお寄せください。

◆若手の会ブログアドレス

<http://wakatekai.exblog.jp>

◆若手の会メールアドレス

wakateno-kai@excite.co.jp